

序 文

「日独排水及びスラッジ処理のワークショップ」は、昭和 49 年 10 月に日独政府間で締結された「科学技術分野における協力に関する日本国政府とドイツ連邦共和国政府との間の協定」に基づく環境保護パネルにおいて開催が合意されたものである。昭和 51 年 6 月に設置された「日独環境保護技術パネル」の第 4 回会合の席上でドイツ側より、下水道技術について専門家による情報交換を深めるためのワークショップの開催が提案された。この提案を受けて準備が進められ、昭和 57 年 10 月に建設省土木研究所（当時）で日独ワークショップの第 1 回会議が開催された。以降、2～3 年毎にドイツと日本で交互に開催されている。

今回の第 10 回日独ワークショップは、平成 18 年 10 月 9 日から 13 日までドイツ連邦共和国ベルリンで開催され、日本側委員団は、国及び政令市からの参加者を含め合計 13 名が、ドイツ側からはカールスルーエ研究所の Fuhrmann プロジェクト次長をはじめとする 15 名が参加した。

論文発表及び全体討議は、9 日、10 日の両日にわたってベルリンのホテルコートヤードマリोटトにて行われ、「下水道システムと下水処理」、「汚泥処理と再利用」、「水処理と分散処理システム」、「水管理（雨水、浸透、管渠システム）」及び「水環境と汚濁制御」の 5 セッションにおいて、対策が必要となっている課題や最新技術について、日本側は 12 論文、ドイツ側は 11 論文の発表が行われた。11 日から 13 日にかけては、Berlin-Stahnsdorf 処理場での「雑排水、屎、尿の分離型処理のための衛生概念」に関する欧州連合実証研究、Prichsenstadt 処理場における雨水滞水池のフラッシング技術、Berching にある膜処理実験装置及び再利用公園等の現地調査を行った。また、ワークショップの最後には共同コミュニケが作成され、ワークショップが両国の研究活動に役立ってきたこと、さらにこれを継続していくことが重要であることを確認し、次回のワークショップが日本で開催することが合意された。

今回の会議で得られた知見や情報は、我が国の下水道技術者にとって有益なものと思われる。本報告書は、このような考えに基づき、ワークショップにおける発表論文と討議の内容を取りまとめたものである。報告書の冒頭にあたり、各委員及び関係各位に深く感謝するとともに、本報告書が我が国の下水道分野で活用され、下水道技術の発展に寄与することを希望する次第である。

平成 19 年 2 月

第 10 回日独排水及びスラッジ処理についてのワークショップ

日本側委員団 団長 那須 基